
Microsoft Project for Windows 95

データベース ユーティリティを使った
Microsoft Project のデータの取り出しと保存

(C) Copyright Microsoft(R) Corporation, 1984-1995. All Rights Reserved.

Microsoft(R) Project for Windows(R) 95 (以下 Microsoft Project) には、プロジェクトのデータをデータベース形式で保存するためのデータベース ユーティリティが付属しています。Microsoft Project では、データベースに保存されたファイルを開いて編集し、その変更内容を元のデータベースに保存することができます。データベース ユーティリティは、Microsoft(R) SQL Server(TM) や Microsoft(R) Access (Version 7.0) のような ODBC データ ソースを使用して、プロジェクトのデータを保存します。

プロジェクトは、データベースに直接保存することも、.MPP ファイル形式で保存することもできます。データベース ユーティリティでは、プロジェクトのすべてのタスク、リソース、リソース割り当てのデータだけでなく、プロジェクトの開始日や終了日のように、リソース割り当ての平準化に伴うすべてのデータが保存されます。ただし、データベースに保存されるのはプロジェクトのデータだけで、それ以外の書式設定、ビュー、マクロ、フィルタ、フォーム、オブジェクトなどは保存されません。データ以外の情報を保存しておくには、[構成内容の変更] オプションを使用して必要な項目を GLOBAL.MPT に移動するか、またはプロジェクト ファイルを .MPP ファイル形式で保存します。

Microsoft Project のデータは、データベースの 4 つのテーブル ([プロジェクト]、[タスク名]、[リソース名]、[リソース割り当て]) に保存されます。テーブルに保存されたプロジェクトの各行は、ProjectKey フィールドの値で識別されます。タスクとリソースは、Microsoft Project のファイルの場合と同様に、それぞれの [固有 ID] フィールドで識別されます。単一のデータベースに保存されている複数のプロジェクト ファイルを、1 つの Microsoft Project ウィンドウに統合して、ビューやレポートで確認することができます。ただし、統合プロジェクトに加えた変更内容を、元のデータベースに再び保存することはできません。

[メモ]

データベース ユーティリティでは、Microsoft Project の情報が、プロジェクトのサマリー タスクの [テキスト 1]、[テキスト 2]、[テキスト 3]、および [テキスト 4] フィールドに保存されます。データベース ユーティリティを使用する場合は、プロジェクトのサマリー タスクの [テキスト 1] から [テキスト 4] までのフィールドを空白にしておく必要があります。その他のタスクについては、これらのフィールドに情報を保存できます。

ODBC ドライバの必要条件

Microsoft Project のデータベース ユーティリティで使用するデータベースまたは ODBC ドライバは、以下の機能に対応している必要があります。

テーブル作成

データベース ユーティリティは、4 つのテーブルを作成して、そこにプロジェクトの情報を保存します。このため、データベースまたは ODBC ドライバのうち、テーブル作成機能を持たないものについては、データベース ユーティリティで使用できません。たとえば、テキスト ODBC ドライバにはテーブル作成機能がないので、データベース ユーティリティでは使用できません。

読み取り/書き込み

ODBC ドライバの中には、データベースの情報の読み取りのみに対応しているものがあります。たとえば、Microsoft Excel (以下 Excel) の ODBC ドライバは、読み取り専用のドライバです。ODBC ドライバを使用して、Excel のブックから情報を読み取ることはできますが、情報をブックに書き込むことはできません。読み取り専用の ODBC ドライバは、データベース ユーティリティでは使用できません。

データ型

Microsoft Project では、タスク、リソース、およびリソース割り当てに関連して、さまざまなデータ型が使用されています。すべてのフィールドをデータベースに保存するには、データベースが次のデータ型に対応している必要があります。たとえば、データベース ユーティリティは複数の [メモ] フィールドを含むテーブルを作成しますが、その形式をサポートしていないデータベース製品も存在します。

ODBC のデータ型 対象フィールド

SQL_TIMESTAMP [開始日] のように、日付と時刻の両方が含まれるフィールド (95/12/31 8:00 など)

SQL_DOUBLE [コスト] のように、小数点以下の数値をもつ数値データが含まれるフィールド

SQL_REAL [達成率] のように、小数点以下の数値をもつ数値データが含まれるフィールド

SQL_SMALLINT [タスク ID] や [リソース ID] のように、整数が含まれるフィールド

SQL_LONGVARCHAR [メモ] のように、半角 255 文字を超える文字列が含まれるフィールド

SQL_VARCHAR [タスク名] のように、半角 255 文字以下の文字列が含まれるフィールド

ODBC ドライバのサポート

Microsoft(R) Access for Windows(R) Version 7.0 および Microsoft(R) SQL Server(TM) の ODBC ドライバについては、データベース ユーティリティで正常に動作することを弊社にて確認しています。そのほかのドライバについても、前の「ODBC ドライバの必要条件」に挙げた条件を満たしている限り使用できますが、弊社での動作テストは行っておりません。

プロジェクトのデータをデータベースに保存するには

1. Microsoft Project でプロジェクトを開いたり新しく作成します。
2. [ツール] メニューの [複数のプロジェクト] をポイントし、[データベース ファイルとして保存] をクリックします。

[メモ]

現在のプロジェクトがデータベースから開いたものである場合、[データベース ファイルとして保存] では、開いたときと同じデータベースにしか保存できません。プロジェクトのデータを別のデータベースに保存するには、[名前を付けてデータベース ファイルへ保存] を使用します。

3. 必要に応じて、プロジェクトの名前を指定します。

[プロパティ] ダイアログ ボックスで既にタイトルを指定している場合は、その名前がデータベースのプロジェクトの識別子として使用されます。タイトルを指定していない場合は、それを入力するためのダイアログが表示されます。同じタイトルを持つ複数のプロジェクトを、同一のデータベースで扱うことはできません。

4. 既存のデータ ソースを選択するか、または [新規作成] をクリックして、プロジェクトを保存するデータ ソースを作成します。

データベースに保存したプロジェクトを開くには

1. [ツール] メニューの [複数のプロジェクト] をポイントし、[データベース ファイルを開く] をクリックします。
2. 開くプロジェクトが含まれるデータ ソースを選択し、[OK] をクリックします。

プロジェクトは、データベースに保存したときに [プロパティ] ダイアログ ボックスで指定したタイトルの順に一覧表示されます。

3. 開くプロジェクトを選択し、[OK] をクリックします。

データベースから複数のプロジェクトを開いて統合するには

1. [ツール] メニューの [複数のプロジェクト] をポイントし、[データベース ファイルを開く] をクリックします。

2. 開くプロジェクトが含まれるデータ ソースを選択します。
3. [OK] をクリックします。
4. [結合] をクリックします。
5. 統合するプロジェクトを [使用可能なプロジェクト] ボックスの一覧から選択し、矢印のボタンをクリックします。データベースのすべてのファイルを統合するには、二重矢印のボタンをクリックします。
6. [OK] をクリックします。

制限事項

データベースにはプロジェクトのデータだけが保存されます。タスク、リソース、リソース割り当て、およびプロジェクト全体についての情報は保存されますが、書式設定、ビュー、テーブル、フィルタ、マクロ、ユーザー設定フォーム、および OLE オブジェクトは、データベースに保存されません。これらデータ以外の情報を保存するには、プロジェクトを MPP ファイル形式で保存するか、または [構成内容の変更] オプションを使用して、必要な項目を GLOBAL.MPT に移動します。

保存するプロジェクトにサブプロジェクトが含まれる場合、サブプロジェクトはデータベースには保存されません。ただし、サブプロジェクトについての情報 (パスとファイル名) は保存されます。

プログラムによるアクセス

Microsoft Project では、Visual Basic for Applications を使用して、データベース ユーティリティにアクセスすることができます。次に、マクロで使用できる主なコマンドを示します。

SaveToDatabase

作業中のプロジェクトを、元のデータベースに保存します。プロジェクトがデータベースから開いたものでない場合、このコマンドは SaveToDatabaseAs と同じ働きをし、必要な情報を入力するためのダイアログを表示します。詳細については、SaveToDatabaseEx を参照してください。

SaveToDatabaseAs

作業中のプロジェクトを、ユーザーが指定した ODBC のデータ ソースに保存します。詳細については、SaveToDatabaseAsEx を参照してください。

OpenFromDatabase

ユーザーが指定した ODBC のデータ ソースからプロジェクトを開きます。詳細については、OpenFromDatabaseEx を参照してください。

SaveToDatabaseEx (DisplayStatus)

作業中のプロジェクトを、元のデータベースに保存します。
プロジェクトがデータベースから開いたものでない場合、このコマンドは SaveToDatabaseAs と同じ働きをし、必要な情報を入力するためのダイアログを表示します。

DisplayStatus - ブール型 (省略可能)

既定値は True です。

True の場合、ステータスのダイアログが表示されます。

False の場合、ステータスのダイアログは表示されません。

SaveToDatabaseAsEx (DataSource, UserID, Password, DriverParameters, DisplayStatus)

作業中のプロジェクトを、ユーザーが指定した ODBC のデータ ソースに保存します。

DataSource - 文字列 (省略可能)

プロジェクトを保存する ODBC のデータ ソースの名前を指定します。

省略した場合、データ ソースを指定するための ODBC のダイアログが表示されます。

ODBC の接続文字列の DSN に対応します。

UserID - 文字列 (省略可能)

データベースに接続するためのユーザー ID を指定します。省略した場合、ユーザー ID を指定する ODBC のダイアログが表示されます。

ODBC の接続文字列の UID に対応します。

Password - 文字列 (省略可能)

データベースに接続するためのパスワードを指定します。省略した場合、データベースにパスワードが設定されている場合には、パスワードを指定する ODBC のダイアログが表示されます。

ODBC の接続文字列の PWD に対応します。

DriverParameters - 文字列 (省略可能)

この引数は、ドライバ固有のパラメータに対応し、必ず ODBC の接続文字列の形式で指定します。ただし、DSN、UID、および PWD パラメータは、それぞれ DataSource、UserID、および Password 引数で指定されているので、指定する必要はありません。

OpenFromDatabaseEx (DataSource, UserID, Password, DriverParameters, ProjectName, DisplayStatus)

ユーザーが指定した ODBC のデータ ソースからプロジェクトを開きます。

ProjectName - 文字列 (省略可能)

データベースのプロジェクト名 (タイトル) を指定します。省略した場合、プロジェクト名を指定するためのダイアログが表示されます。

Microsoft(R) SQL Server(TM) に関する注意事項

アクセス権

Microsoft Project のファイルをデータベースに初めて保存したとき、そのデータベースには常に 4 つのテーブルが作成されます。ただし、4 つのテーブルが正常に作成され、どのユーザーからも利用できるようにするには、[データベース ファイルとして保存] コマンドで SQL Server (TM) のデータベースに接続するときに、システム管理者のログイン名 (既定では 'sa') とパスワードを指定する必要があります。この手続きが必要なのは初回のみで、テーブルがいったん作成された後は、適切なアクセス権を持つユーザーであれば、ほかの Microsoft Project のファイルからでも、SQL データベースのテーブルにデータを追加できるようになります。

レジストリの設定

データベース ユーティリティでは、以下のような初期設定を使用しますが、これらは必要に応じてレジストリ エディタで変更できます。このセクションのレジストリ キーは、[HKEY_CURRENT_USER\Software\Microsoft\MS Project\4.1\Database] です。設定はすべて省略可能です。設定の名前は、等号 (=) に続いて太字で表示されます。標準の値はかっこで囲まれ、設定がレジストリにない場合に使用されます。

設定

LocalSave=(No) データベースから開いたプロジェクトのローカル コピーを保存するかどうかを指定します。この設定は、Visual Basic for Applications のマクロでのみ使用されます。

[メモ]

このファイルを前回データベースに保存したときの形式が MS-DOS ファイル (.MPP) 形式の場合は、この名前がデータベースに保存されます。保存先のフォルダ (フォルダ) に同じ名前のファイルが存在しない場合は、ファイルが自動的に作成されます。そうでない場合は、レジストリの **LocalSavePath** で示されるフォルダ (フォルダ) に新しいファイルが作成されます。

LocalSavePath=(No Default) 有効なパスを指定します。このパスが存在しない場合、自動的に作成されることはなく、現在のパスが代わりに使用されます。

AutoConnect=(No) [データベース ファイルを開く] ダイアログ ボックスで、ユーザーが最初に指定したデータ ソースを、今後も自動的に使用するかどうかを指定します。これにより、データ ソースの選択のダイアログ ボックスが表示されなくなります。この設定は、Visual Basic for Applications のマクロでのみ使用されます。

ConnectionString=(No Default) 前回使用したデータ ソースの ODBC の接続文字列を完全な形式で指定します。この設定は、[データベース ファイルを開く] または [データベース ファイルとして保存] を実行するたびにリセットされます。

